

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200453		
法人名	社会福祉法人 唐津福祉会		
事業所名	栄荘グループホーム		
所在地	唐津市東唐津2丁目22-2		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年11月20日	外部評価確定日	令和2年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>唐津市の東部、唐津城の近くの静かな住宅街、海や川も近く自然豊かであり、地元で育った利用者にとって心落ち着く住環境である。東唐津地区の高齢化は進んでおり、それに伴い認知症を有する高齢者もますます増加している。隣接する小規模多機能居宅介護みつま荘と共に地域住民と協力体制を築いている。協力医療機関は地元の診療所であり入居者全員が主治医としている為、異常・急変時は夜間を通して対応して頂けるよう協力体制を確立している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>唐津のお城のお膝元。海も手の届くところにあり、自然と品のある静かな街中にあるホームである。居室からテラスに出れば唐津城が見える。運営推進会議には町内の1丁目～4丁目の会長の出席が有り、地域との協力関係が出来ている。また、協力医は昼夜問わず対応してくれて、入居者、家族、職員共々心強く安心に繋がっている。今年はコロナウイルスによる感染防止等で外出もままならない状態の中、管理者職員が一丸となって入居者の安全を守り、外出支援に替わるものをと頑張っているホームである。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度のGHの目標である、「利用者が現在持っている能力(身体面、精神面)を生かしたケア」を心がけている。居心地の良い雰囲気を心がけ安心・安全を確保できるよう毎朝理念の唱和を行っている。月1回での勉強会で個別の生活支援が出来るよう協議を行っている。	理念は設立当初のもので、入居者の心に寄り添う理念である。リビングの目につき易い所に掲示してある。昨年ホーム独自の目標として「話をしっかり聞きましょう。人生の先輩として接しましょう。居心地の良い雰囲気を心掛けましょう。」と職員で作らあげた。入居者の笑顔や職員の対応を見ていると、理念と目標が浸透しているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和元年度は地元の運動会や地域交流(ひまわり喫茶)を行った。避難訓練でも地元の消防団の協力のもと訓練を実施できた。今年度はコロナ感染拡大を考慮し外出を控え地域住民との交流もほとんどできなかった。	昨年は運動会や地域の交流会等に参加出来ていたが、今年はコロナ感染防止の為、出来ていない。交流していた幼稚園からの声掛けが有り、ビデオでお互いの交流が出来ている。外を職員が掃除していると、ご近所の方が窓越しに声を掛けて下さる。お天気の良い日に玄関先でお茶をしていると、お散歩途中の地域の方との会話等がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民からの介護・福祉に関する相談、対応。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は2ヶ月に1回実施。事業所サービス提供の状況や利用者の活動報告等を行っている。委員の方に助言・気づきなどの意見を頂きサービスに生かすように努めている。今年度はコロナの影響で開催できない月もあったが書面にて各委員へ事業報告を行い助言をいただけるように取り組んだ。	運営推進会議には東唐津町内の1丁目～4丁目の町内会長、老人会長、民生委員や介護相談員の方々の出席がある。ご近所の方はまだ現役の為、参加がない。議事録にはホーム内の行事等の報告になっているが、雑談でお互いの住民のこと等の情報交換の場でもある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	唐津市高齢者支援課・地域包括センターへ2ヶ月に一度、通信を送付している。高齢者支援課・地域包括支援センターから情報提供や助言を随時受けている。	運営推進会議後も情報を得たりしている。問題点があったり、相談があれば、電話や出向いて行き、実直に対応してれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設である「特養栄荘」と連携し、虐待防止及び身体拘束廃止委員会に参加している。また、高齢者虐待と身体拘束廃止の為の指針を策定している。随時勉強会を開催し職員の意識向上に努めている。特にスピーチロック等言葉による虐待について話し合っている。	身体拘束はあってはならない。しないを原則としているので、入居時に説明もない。法人で委員会が有り、3ヶ月に1回以上開催し、職員に周知の徹底を図ると運営規定に掲げている。命に関わることで以外で拘束しなければならない場面があれば、しなくて良い方法がないか職員間で話し合う事としている。ペットの柵も目の不自由な入居者の手助けになるものは、家族にも説明をしている。無論スピーチロック等の気づきがあった場合、管理者がさり気なく言ってみせ、職員には注意を促す。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて唐津市社会福祉協議会と連携し、日常生活自立支援事業の説明、紹介を行っている。職員の意識向上のために勉強会を開催している。昨年まで成年後見人や法律事務所(保佐人)をたてている利用者もいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結に関しては出来るだけわかりやすい言葉を用いて説明を行っている。ご家族が理解でき納得された上で契約をかわすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別に話す機会を作り利用者の意見・気づき・不満・苦情を聞き運営に反映させている。施設内に意見箱を設置し意見や要望等の回収に努めている。ご家族、利用者との意見交換は適宜行い、極力希望に添えるように努めている。	苦情や要望を直接に言えない場合、施設や行政機関が有ることを入居時に説明している。ホーム内にも意見箱が設置してあるが利用された事はない。ご家族が訪問されたおり、職員は要望や意見が聞き出せるように会話に努めている。入居者との会話の中からも要望があれば、職員間で共有し運営に活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が毎月の業務会議にて職員からの意見を聞き取り、職員が積極的に動けるようにしている。	月1回の会議は、18時～19時の1時間。全員参加となっている。次回の会議のテーマを事前に掲げ、意見を出し易いように工夫している。常に管理者は職員との信頼関係が築かれ、行事開催も任せている。計画は事前に報告するが、瞬時に決まる催しがあったりする場合、代表者には事後伝達となる事もある。職員、管理者、課長、代表へと繋がりが良好なことが、入居者の笑顔に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを活用し、個々の職員の取り組み・仕事に対する姿勢を評価している。必要な助言・指導は随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染予防の為今年度は法人外の研修は参加できていない。事業所では毎月1回業務会議の際職員の意識向上の為勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防の為今年度は法人外の研修は参加できていない。事業所では毎月1回業務会議の際職員の意識向上の為勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ご家族により情報収集を行い、本人の気持ちに寄り添いながら信頼関係を育むように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が要望を言いやすい雰囲気を作心がけ、スタッフの方からご家族へ声かけを行う姿勢を行うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人からの相談内容や状況を確認し、必要なサービスを見極めるようにしている。必要に応じて当施設以外の利用等も含めて適切な施設等の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共同で手作業や物づくりを行い生活の中で信頼と対等な立場で支えあう関係に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時に本人の様子、状況をお話しし、家族と過ごされる時間を大切に考え共に支えていくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴・生活習慣・対人関係・趣味活動等本人のなじみのある関係を支援に生かすようにしている。隣接するみつま荘の利用者との交流を大切に支援に努めている。	入居時に生活歴、習慣、趣味等を把握しているが、家族の面会や入居時の寛いだ時の会話の中から聞き取り支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活内で入居者同士の世間話や手助けを行いながらの作業を大切にしている。またテーブル席にも気を配りお互いが良い関係で過ごすことが出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたときは、職員が定期的に家族やケアワーカーと連絡を取りあっている。契約が終了した時も相談に応じる姿勢をご本人やご家族に示し、丁寧に対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の思いや意向を普段の会話から聞き取ったりしながら情報収集を行い職員間で共有するように努めている。ご本人、ご家族、職員と協議し利用者の思いや暮らし方に寄り添えるように努めている。	お盆や正月の宿泊、日帰りがあったが、今回はコロナ騒動で難しくなりそうである。希望や要望を伝えられる入居者は3名程で、発語の少ない入居者には、職員の言葉かけで聞き出す努力をしている。その中から出た要望は記録に残し、職員の間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでの情報や家族等の面会時に得た情報をもとに状態変化などにも気を配っている。ご家族とも連携していく中で日々の生活に繋がられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の能力を見極めその人に合わせた生活が営めるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や日常生活の中で出来る限り入居者や家族の希望や思いを組み込んだプランを立て、毎月のモニタリングを行っている。また、少しの変化でも家族、主治医と情報を共有しながら計画作成に反映できるように作成している。	利用者と家族の要望を聞き、計画が作成されている。計画に基づいて毎日チェックをし、毎月のモニタリングを行い、変化、注意点があれば臨機応変に見直し、主治医、家族に連絡している。家族の参加が不可能な方には電話連絡をして了解を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態やケアの状況を個別に記録し介護計画に反映している。職員は朝礼や連絡ノート、また月1回の会議にて情報交換やケアの周知等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活する上で変化する状況、身体状態、要望に対して柔軟、かつ迅速に対応できるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が地域の中で生活や拡がりを持つよう民生委員や駐在員、地区の消防団、近所の方への協力をお願いしている。2ヶ月に一度地域には回覧板で通信をお届けしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診はご家族と協力し実施。主治医による往診は1日1人の為、1週間の間で3,4日、休日や夜間帯も必要に応じて往診して頂いている。利用者の状況変化があった際はFAXで情報を共有するように努めている。通院の際は家族、職員が送迎を行い家族が付き添われる場合は荘での日常の状態等をメモと口頭で伝えるように努めている。受診後は必ず結果等を確認している。	かかりつけ医から協力医への変更を強制はしていない。協力医の往診が週3~4日あり、その日の受診になっていなくても、当日に変化があれば対応してくれるので、、入居者、家族、職員の安心に繋がっている。他科受診で家族付き添いの時は、口答とメモを渡す。職員付き添いの時は、変化の有る無しにかかわらず、当日に家族に連絡している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は主治医・看護職員と協力し入居者の健康管理に努めている。緊急時は協力医療機関や看護職員と共に連携し医療的な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に備え救急カード、フェイスシート等を作成し、定期的に見直し等も行っている。入院された場合はお見舞いに行ったり、ソーシャルワーカーと連絡を取り合い情報を確認している。また、退院時は注意事項や入院中の状況を聞き取り、確認を行い職員で共有することで日々のケアに反映している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の意向については随時、本人、家族、主治医と協議し話し合いも持つように努めている。入居前に終末期、荘で出来る事と出来ない事の説明を行っている。	終末期を安心して迎えるには、職員のスキルが求められる。ホームでの看取りが出来る事と出来ない事を家族に説明している。最期をどう迎えるか、誰もが不安を抱えるものである。家族と何回も話し合いを重ね、毎日主治医も往診に来て、家族にも説明してくれる。家族が希望すれば宿泊も出来る。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルや事故発生時のマニュアルを作成。スタッフがスムーズに対応できるように定期的に勉強会で確認している。急変時の早期発見に努め、見守りと巡回を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成している。年2回の避難訓練を実施している。唐津消防署・東唐津消防団の協力を得て訓練を行っている。台風や大雨が予測される際は事前に避難車両を玄関先に停車しすぐに避難場所である栄荘へ移動できるよう準備に努めている。	水害で市内は水浸しになっても、昔からホーム地区は水浸しにならないそうである。すぐ海も見え津波の心配もしたことがないからと侮ってはならないと、大雨の予測には法人への移動準備を心得ている。原発の訓練もしている。消防署と消防団の協力で防火訓練を行っている。夜間想定で行っているが、実際の暗さでは、想定では計り知れないことがある。職員会議を18時～19時にしているので、その時に職員だけでも実行してみる意義があると考えている。食料品の備蓄は法人でまとめてある。非常食を入居者と頂くことがある。水はホームで用意されている。寒さを凌ぐ毛布類も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームの目標に挙げている「人生の先輩として接しましょう」を念頭に職員が入居者の自尊心やプライバシーを損なわないように声かけや支援を出来るよう気をつけている。	職員で掲げた目標に「人生の先輩として接しましょう」とあるように尊敬の念をもって接している。掲示する写真にしても入居時に了解を得ている。各居室ともパット類は露出していない。失禁もさり気なく誘導して自尊心を傷つけない配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択しやすい声かけ、自己決定能力に応じた対応を行い出来るだけ本人の意向に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活を送る中で個々の行動や生活リズムを良く観察し、本人の希望や思いを確認しながら生活が実現できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れや乱れ、季節ごとの衣類の調整をおこなっている。衣替えや補充の際はご家族に協力いただいている。毎朝、個々に応じた整容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立の紹介を行い食事前には季節の食材等のお話しを取り入れ食への興味を持っていただけるように努めている。入居者と一緒にコミュニケーションをとりながら片付け作業を行っている。また季節の行事ではお茶をたてたりしている。	毎日の食事は法人から提供されるが、ご飯と味噌汁はホームで作っている。ご飯の炊き上がりの香りで食事のタイミングも分かる。食材により、食が出来ない入居者には代替えが用意されてくる。希望の献立が用意されるのは難しいので、外食する時のある。それが楽しみの一つにもなっている。誕生日には本人の好物を聴き、ケーキであったり、餡子ものであったりと全員で祝っている。また、後片付けを手伝う入居者や、おやつを職員と作ったりして楽しんでる姿が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により、栄養バランスの取れた献立を調理し提供している。食事制限や、病状に応じた食事の提供も行っている。脱水症状にならないようにこまめにお茶、コーヒー、紅茶などの水分補給を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。また、口腔ケアの重要性を認識し各々のケア、確認を行っている。歯科医からの助言、指導も頂きケアの向上に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	現在おむつ使用者はおられず、ご本人に応じたパンツ、パッドを使用している。個々に応じた排泄時間を把握し、失敗が少ないように努めている。また出来る事はして頂きながら安全への配慮を行っている。	自立している人は1名である。時間を見てさり気なく誘導でトイレでの支援である。夜間は各室でポータブル使用もあるが、トイレでの支援が多い。布パンツからリハビリパンツに移行するのも、入居者にとって改善の方法であるかを職員、家族共々話し合っている。経済的な事もあるので、十分な話し合いがなされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分摂取の提供を行い、適度な運動を行っている。便秘傾向がある入居者には腹部マッサージやオリゴ糖摂取等で排便を促している。また主治医への相談・指示を仰ぎ便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回入浴を実施している。入居者の状態を観察し、状態などに配慮しながら行っている。入浴を嫌がられる利用者は時間を置きお話のタイミングを進めている。体調不良の場合は主治医にFAXで状態報告行い指示を仰いでいる。入浴できない場合は清拭、更衣を実施している。	基本的に週2日の入浴である。希望があれば隣の小規模多機能での入浴が可能である。身体機能が衰えても利用できるよう、先を見込んでのリフトが設備されている。脱衣場は暖房設備もあり、脱着も敢えて、手出しはせず、職員が見届けている。友達同士の入浴もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調、状態に合わせた適切な休息、安眠に繋げている。ご自分のペースで無理なく過ごして頂けるような対応を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬の説明書」の確認を行い一人一人の確実な服用を心がけている。主治医、薬剤師による指示薬を服用して頂き薬の変更の際は職員が連絡帳に記載し皆で周知するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の得意なことや好きなことを把握し生活力、残存機能を生かした取り組みを個々に応じて行うように努めている。生活の中で楽しみ、気分転換が図れるよう役割を持っていただけよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年度は家族と一緒に掛かけたり地域の運動会やお遊戯会に参加したりしたが今年はコロナ感染予防の為外出する機会が減少し周辺散歩や玄関先での日光浴や花の世話などを多く取り入れ利用者の気分転換を図るよう支援を行った。	体調や気候に合わせて近所の散歩に出かけている。今まで出来ていた外食やドライブ、お花見など季節折々に出来ていたことが、今年はコロナの事情で出来なくなっている。外出が出来ない分、庭でお茶したり、ミカンの木を切ってきたのをハサミで枝から切り落としていた笑顔の写があるように、職員は何か出来ないかと考え、入居者が室内に閉じ込めない工夫をしている。軒下には晩秋の風物詩の吊るし柿も出来ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	昨年は職員、ご家族が付き添い、社会参加や行事などで外出した際に、本人が支払いを行われる機会を設けていた。今年はコロナ感染予防の為外出や地域行事の参加自体が難しかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望されるご家族、入居者はプライバシーに配慮しながら個別に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に作成した季節ごとの展示物や行事等の写真を提示している。施設内の共有空間を快適に過ごして頂くため清潔保持に努めている。	各居室は24時間換気がなされている。ホールに出られた後は部屋の窓を全開にしている。お天気の良い日は布団を干し、そこから右を見ると唐津城が見える。車の往来も少なく静かである。不快な臭いもなく、手すりなど毎日3回は消毒している。通行を妨げる障害物もない。トイレは車椅子で十分な広さである。お花の先生をなさっていた入居者による生け花が美しく部屋を飾っている。ホールの椅子の足には毛糸で編んだ色とりどりのカバーがついている。入居者と職員で編み上げたもので優しさが感じられる。職員との会話が弾んでいるので音楽はかかっている。食事の時に優しい静かな曲が流れることもある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで気の合った入居者同士がくつろいで過ごせるようにソファなどのレイアウトに気を配っている。また、自室でゆっくりと過ごせる時間も自由に設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品物や写真などを持ち込めるようにご本人・家族に相談している。生活用品などの不足も内容に随時家族に連絡し不自由なく過ごして頂けるように配慮している。各居室は個々に応じて温度調整を行い快適に過ごして頂けるように努めている。	居室には整理タンス・クローゼットがある。衣替えした物はクローゼットの中に納まり、部屋はスッキリ片付いている。家からの持ち込みに制限はない。写真立てやカレンダー等でその人らしい居室となっている。入口も広く出入りを妨げるものはない。掃除は職員と一緒になされ清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の必要箇所には手すりを設置。トイレも車椅子を使用しても使用できるスペースを確保している。個人の愛用品や補助用具は制限せず使用して頂いている。出来るだけ自立した生活が送れるような声かけ等を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない